



Lions Club 332-E地区機関誌

Lion

# 最上川

No. 2  
2023 ~ 2024



ボストン国際大会 2023.07.07 - 11

◆地区ガバナー L. 西村公夫

## 第105回ボストン国際大会紀行

◆キャビネット幹事 L. 山口 龍二

国際大会 in 「遠いBoston」



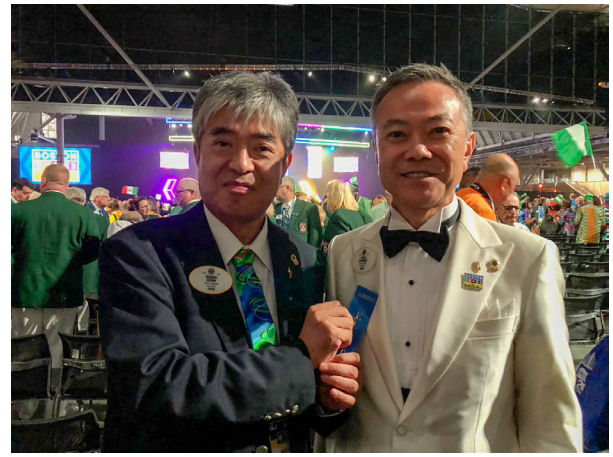


# BOSTON

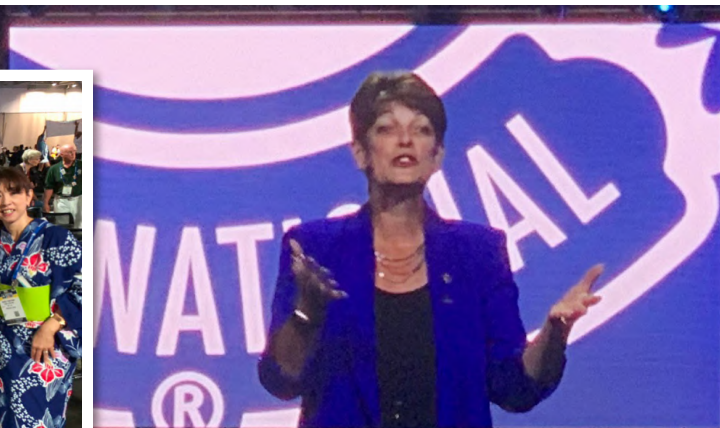
## 第105回ボストン国際大会紀行

### ライオンズクラブ国際協会332-E 地区 地区ガバナー L. 西村 公夫

7月6日、成田空港午後5時発、シカゴで乗り換えボストンローガン空港までフライト合計15時間。現地時間7月6日の夜11時、ルネサンス ボストン ウォーターフロントにチェックイン。翌7日 朝からエレクトセミナーに参加、パティ・ヒル国際第一副会長のセッションの後、英語圏ライオンとの意見交換、夜は白タキシードとドレスに包まれエレクト晩餐会。8日 好天の中インターナショナルパレード、9日 日本ライオンズ代議員会・投票、10日 大雨のボストン美術館・ハーバード大学周辺の観光、最終日11日 地区ガバナー就任宣誓式、吾妻正章ガバナーよりエレクトリボンを外して頂き地区ガバナーへ就任。浴衣姿のメンバーも加わり332E地区ガバナー晩餐会。8日間の日程を無事に終え13日午後3時に帰国。妻とは30年ぶりのアメリカへの旅。妻と手を繋いでボストンの港を歩いた。1年をかけて332E地区に恩返しをしたい。









# 国際大会 in「遠いBoston」

キャビネット幹事 L. 山口 龍二

7月7日から11日にかけて、米国マサチューセッツ州ボストンにて「第105回ライオンズクラブ国際大会」が開催されました。吾妻ガバナーご夫妻・西村ガバナーエレクトご夫妻（当時）とは別のツアーとして、332-E地区の第一・第二副地区ガバナーを含む7名と335-B地区元地区ガバナー川野ご夫妻を加えた9名での参加です。新型コロナウイルス感染症の影響を受けて旅行を自粛しておりましたが、キャビネット幹事という職責を踏まえての海外渡航となりました。

往路：成田（17：40 発）→ モントリオール（経由）→ ボストン（21：18 着）

復路：ボストン（8：00 発）→ バンクーバー（経由）→ 成田（14：55 着）

どちらもカナダの都市を経由しての行程となります。成田空港を集合場所とし、それぞれの交通手段で集まりツアーがスタートします。

それでは、この9人が体験した、ボストン・ヘビー・ツアーの報告させていただきます。

**7月7日（金）** 8時45分、庄内空港から羽田空港へと向かいます。天候よし！旅への期待は膨らんだのですが、目的地ボストンは天候がすぐれない予報、パレードや観光への影響が気掛かりでした。

羽田空港からはリムジンバスで2時間弱、成田国際空港第1ターミナルに到着してすぐにポータブルWi-Fiを借り、チップ用の両替も済ませて昼食をとります。程なく、第二副地区ガバナーL. 横山の教えを受けタッチパネルでチェックイン、荷物を預けてセキュリティチェックへ。全員がチェックを終えたことを確認し、税関手続・出国審査を終えて搭乗口でツアー参加者の集合を待ちます。航空会社はエアカナダ、搭乗口周辺は前便の客で賑わっています。私たちが乗る便も満席で、国際旅行の盛況さが伺えます。搭乗便は少し遅れて出発、まずはモントリオールまでの13時間が始まりました。



さて、ここから珍道中が始まります。経由地のモントリオールに着いた私たちはトランジットで係員から戻されます。乗り換える飛行機のフライトがキャンセルされ、代替便に乗るために一旦カナダに入国しての手続きが必要になったのです。天候の影響を受けて機材の調達ができなかったそうですが、翌日の代替便も見つからず明後日（9日）のフライトになることを告げられます。すべてが電話対応で交渉の余地はなく取り付く島もない。加えて空港施設は電波の環境が非常に悪く、電話やネット検索は容易ではありません。L. 横山のお陰で宿も見つかりましたが、意図しない経由地での宿泊を余儀なくされた私たちは、移動できない時間をモントリオールで過ごすことになりました。

モントリオール空港からはリムジンタクシーを使いました。かなり割高なのですが、大きな荷物があることと安全性を優先させての選択です。ドライバーの対応はよく、翌日の観光にチャーターして利用することにしました。夕食はアメリカンなグリルバー、この時は不安を抱えつつも、食事と会話を楽しみます。思わぬトラブルにより、参加者の心が急速に近づいたように感じました。



**7月8日(土)** 朝からボストンでのインターナショナル・パレード情報が入ります。しかし、私たちは未だにカナダ。用意した浴衣や袴はただの荷物になりました。

モンリオールの街並みは新旧のビルが立ち並び歴史を感じながらも、店舗からは多民族国家（移民受入）であることが伝わってきます。ダウンタウンの路上には人（無宿者）が寝ていたり、深夜0時に女性が一人で犬を散歩させている姿もあります。街中ではクラクションの音はほとんど聞かれませんが、留学しやすい国の1位に紹介されることもある治安の良さを感じたところです。観光は市内を一望する見晴らしのよい場所やノートルダム大聖堂、モンリオール植物園などを巡り、世界最大といわれるモンリオール国際ジャズフェスも垣間見て終えます。

この日の夜、実は夜行バスでの国境越えを企て座席も確保していたのですが、エアカナダに却下されてしまいカナダでの二泊目が確定していました。夕食は居酒屋風のバー、日本人の従業員がいたことで母国語でのオーダーできる喜びと、滅入った心が日本食に癒されるのを感じました。旅への希望が戻りつつあり、気持ちの切り替えに向けての会食をみんなで楽しみ、まずは二日目を終えたのでした。



**7月9日(日)** 代替便は4コース。ボストン直行1名、別便でのボストン直行1名、トロント経由ボストン行き1名、オタワおよびニューヨーク経由ボストン行きが6名。無事にアメリカに入国し、ホテルで再会できることを願いモンリオール空港に向かいます。が、願いは届きません。この日はとてもヘビーな一日になりましたので、時系列で紹介させていただきます。

○川野夫人が乗るボストン直行便が出発。ボストン空港にて夫のL.川野を待つことに。

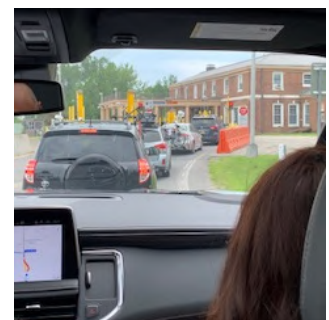
○6名が乗る予定のオタワからの乗り継ぎ便がまたしてもキャンセル。代替便は二日後、モンリオールに4泊というきつい条件を突き付けられます。ボストンに着くころには国際大会は終わってしまいますので、帰路のチケットを確保したうえで米国への入国を試みるためにL.横山が1時間以上の交渉に挑みます。6名が同時に移動して荷物も運べる、その手段としてリムジンタクシーという選択肢が浮上したのです。粘り強い交渉の結果、エアカナダも特例として帰路の旅券を確保したうえでの6名のボストン便取り消しを受け入れました。この時やっと、ボストンの街並が見えたように思います。

○その間に、川野夫人がボストン空港に到着。

○6名はタクシーとの交渉に移ります。タクシーはドライバーも国境を越えるため、何らかの問題があるのではないかと考えていました。最悪の場合は国境まで送ってもらい、米国のタクシーに国境まで迎えに来てもらうことも考えました。ところが、難航すると思われた交渉は容易に決着。リムジンタクシーは6名と荷物を乗せて11時15分に出発。一昨日からのリムジンタクシーとの関わりが、新たなルートを開拓したのです。初めての陸路国境越えにかなり緊張気味の面々でした。

○L.川野、ボストン便搭乗後に天候悪化によりキャンセル。躊躇することなくタクシーに乗り込みます。9名はグループLINEという見えない糸でしっかりと繋がっており、陸路国境越えの情報は共有されていました。

○川野夫人、仕方なく単身でホテルにチェックイン。





○L. 尾崎、時刻を多少過ぎての搭乗となりましたが、搭乗後の欠航やトロントでの乗継便の欠航に不安が残ります。

○6名、ボストン（ホテル）に無事到着するも支払いのカードリーダーがカナダ仕様のため使えない。現金支払いを求められるもカナダドルは無い。全員の米ドルをかき集め、ギリギリで支払うことができました。なお、私たち同様に米国入りした同社のタクシーは16台もあったそう。

○L. 川野、ボストン（ホテル）にタクシーで到着。支払いはカナダ国内でカード決済を済ませていました。事情を理解しているドライバーのファインプレイです。

○L. 尾崎、トロントを経由して無事にボストン（ホテル）到着。このとき既に23時を回っており、L. 安孫子の抱擁によって迎えられます。車で5時間半ほどの距離を17時間かけて移動したわけですから、ツアー参加者9名はなんとか目的地のボストンに辿り着きました。私自身は自宅を出て59時間、大阪から参加のL. 川野夫妻は前泊があり、おそらく70時間を超えての目的地到着となったことでしょう。



**7月10日（月）** 気を取り直してのツアー  
折り返し地点をホテルでの朝食で迎えます。

このあたりまえの始まりに安堵を覚えました。ボストン郊外に建つ小さめのホテルは歴史を感じ、周辺を鴨や野ウサギが人を怖がることなく歩いているという自然豊かな河畔にありました。スリランカの元地区ガバナーご夫妻も宿泊しており、同志を称え合う機会もありました。

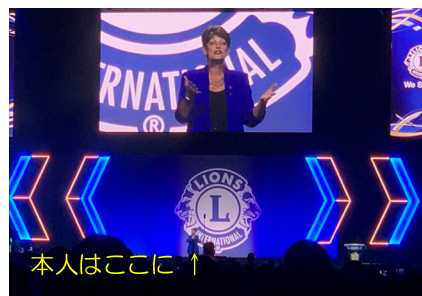


さて、市内の移動にはUberを使います。安全、安心、スムーズだからです。会場となるE C B Cにて登録を済ませ、いざ投票へ。日本人スタッフに苦労話をすると、未だにボストンに辿り着けない人が大勢いるとのこと。ニューヨークからカナダに

かけて降った雨は洪水になるほどで、空への影響は大きかったようです。私たちは二日ほど遅れたわけですが、ボストンに辿り着けたのだからラッキーだったのかもしれません。

この日は観光も楽しみました。女性陣はクインシーマーケットでロブスターロール（？）などを食べてから買い物をしてボストン美術館へ、男性陣はフェンウェイパークでレッドソックスグッズを購入してからピザを食べてボストン美術館へ、閉館時刻までそれぞれで観て回りました。ここには、日本のライオンも多数訪問しており、吾妻ガバナーご夫妻とも遭遇したところです。さて、ここで帰るかと思いきや、スーパーマーケット「Trader Joe's」で米国の食料品などをお土産用に購入します。疲れて休みたいと考えていた私は、女性陣のパワーを実感したのでした。

夕食はJ F Kが好んで通ったという「Union Oyster House」、雰囲気は最高、牡蠣やロブスターも美味しい、投票という役目を果たした安堵から会話も弾みます。旅の前半を振り返り、杯も進んで上機嫌の帰宿となりました。





**7月11日(火)** 閉会式に向かいます。女性陣はパレードで着る予定だった浴衣で参加。至る所で足止めされ記念撮影を求められたようです。民族衣装が華やかな国際大会で和服は絶大な人気がありました。式はとてつもなく広大なホールにステージを組み、大型スクリーンで拡

大放映。プロの司会者が饒舌を振るい、国際理事たちもジェスチャーやジョークも交えて能弁な演説を聞かせ懸命に盛り上げます。選挙結果の発表（日本人二人は当選）や会長引き継ぎを経て西村ガバナーエレクトは吾妻ガバナーからエレクトリボンを外してもらい大会の全てが終了となりました。素晴らしい国際大会を体感できたのですが、332-Eのメンバーが揃ったのはこの瞬間だけということは心残りです。



さて、ボストンは港町。西村ガバナーはタキシードで奥様と港周辺を散策し、多くの人の注目を浴びたそうです。港に近い「Row34」での晩餐会では、ほっとした笑顔のガバナーご夫妻を囲み、海の幸をいただきながら杯を挙げる爽やかな祝宴となりました。

旅の終わりはホテルでの反省会。前半の苦労と後半の楽しみで笑いが絶えない食事会となりました。これぞ、産みの苦労です。今回の参加者は332-E地区7名に335-B地区の2名を加えた9名の旅。ここに記さなかった小さなトラブルもたくさんありました。それらを乗り越えた私たちの絆は、相当に強くなったと感じています。日本に帰ってからの反省会も予定されました。新たな楽しみに期待が膨らみます。



**7月12日(水)** ホテルの玄関には笑顔が揃います。搭乗する飛行機のキャンセル連絡は入っていません。ボストン空港に向かうUberの車窓から、この空港の印象が無いことに改めて気付きます。9名の参加者のうちボストン空港を利用したのはたったの2名。その不思議な気持ちをもったままチェックインカウンターへ。バンクーバーでの乗り継ぎも無事に終え、帰路は順調に進みます。

**7月13日(木)** 日付変更線を超えて成田空港に着きます。ここからはそれぞれの帰路、私はリムジンバスで羽田空港へと向かいます。空路庄内に飛び、自宅に着いたのは22時10分。こうして、なかなか辿り着けないボストンでの国際大会ツアーを終えたのでした。

パレードには参加できませんでしたが、投票は済ませたので役目は果たせたと感じています。二度と体験したくない旅でしたが、また行きたいと思える旅になりました。メンバーの絆は太く長いものになることでしょう。トラブルの全てに対応してくださったL.横山には衷心より感謝申し上げます、国際大会の報告とさせていただきます。



L.渡部、L.川野、L.中山、L.山口、L.安孫子、L.横山、L.横山、SP.川野、L.尾崎

みなさん、  
国際大会に参加しましょう。  
新しい発見がありますよ。